はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～　発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

気象庁には船があるって本当？

10 月 26 、27 日に「北九州港開港記念イベント～みなとハロウィン 2024～」において気象庁の海洋気象観測船「啓風丸」を一般公開し、多くの方に参加いただきました。今回は意外と知られていない（？）、船による海洋気象観測を紹介します。

■気象庁の海洋気象観測

海洋は温室効果ガスである二酸化炭素を吸収したり熱を蓄えたりすることによって地球温暖化を緩やかにしています。また、海上で発生した大量の水蒸気は台風を発生・発達させたり、線状降水帯による集中豪雨をもたらしたりします。このように海洋は気候や気象と深く関わっているため、気象庁では「凌風丸」、「啓風丸」の２隻の海洋気象観測船（以下、観測船）によって日本近海と北西太平洋海域の状況を監視しています。

凌風丸（りょうふうまる）

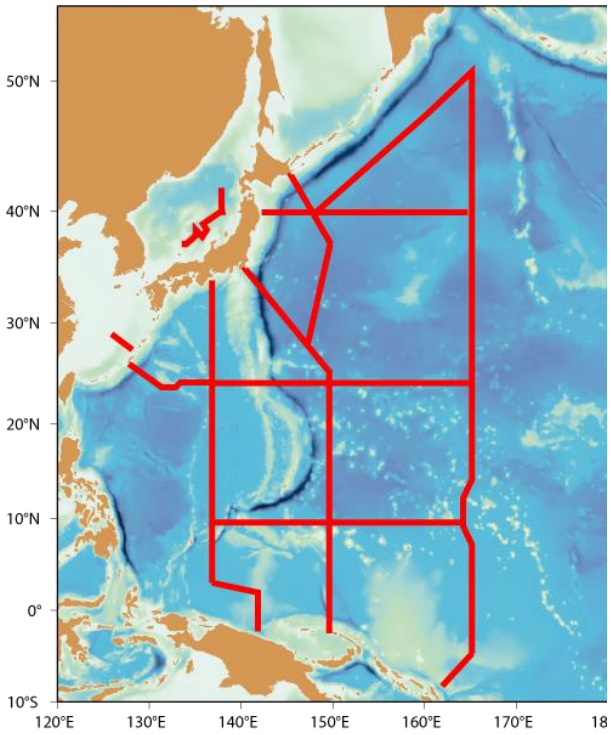
総トン数 1,986 トン　全長 85.6m　竣工：令和６年３月１日

啓風丸（けいふうまる）

総トン数 1,491 トン　全長 81.4m　竣工：平成 12 年９月 27 日

■観測船の役割

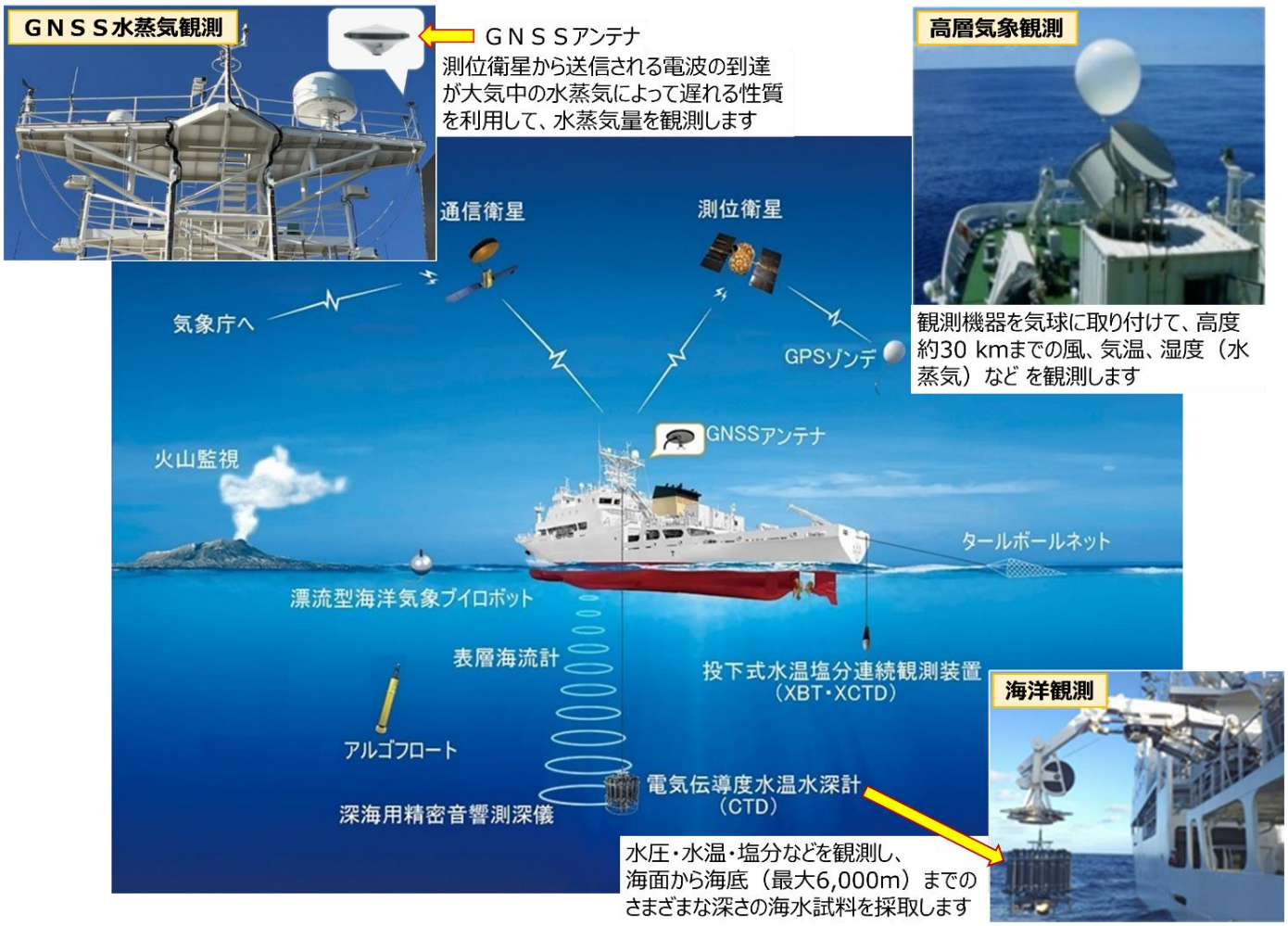
観測船の主な役割の 1 つが二酸化炭素の観測です。海洋は大気と密接に結びつき、気候変動に重要な役目を果たしています。観測船では、海洋の長期的な変動をとらえて気候変動との関係等を調べ、地球温暖化の予測精度を向上させるため、東経 137 度などの観測ラインを設けて、継続的に海水中と大気中の二酸化炭素量の観測を行っています。



主要な海洋観測ライン

もう１つの主な役割は海上の水蒸気量の観測です。台風や線状降水帯による集中豪雨の予測精度を向上させるためには、海上からの水蒸気の流入を正確にとらえることが欠かせません。このため、観測船では全球衛星測位システム（GNSS：Global Navigation Satellite System）を利用した水蒸気観測や、船上から観測機器を付けたバルーンを上空に向けて飛ばす高層気象観測を行っています。

他にも、海洋表面から深層までの水温、塩分、溶存酸素量、栄養塩、海潮流などの観測、海水中の化学物質や浮遊プラスチックなどの汚染物質の観測、日本本土から離れた西之島などの離島火山の観測も行っています。



観測船による海洋気象観測の概要

凌風丸と啓風丸は、これからも線状降水帯予測精度向上、地球温暖化への対応などのため、海洋の状況を監視していきます。

はれるんからのお知らせ

北九州港開港記念イベント～みなとハロウィン 2024～では、『「みなと」のお仕事ゆるキャラ人気投票』が行われ、はれるんもエントリーしました！
残念ながら、１位の座は北九州港マスコットキャラクター「スナ Q」に譲ってしまいましたが（はれるんは６位・・・）、多くの方にあたたかいお声掛けや応援をいただきました。これからも、はれるんをよろしくお願いします！

啓風丸の前でお出迎え

ふねこ(左:阪九フェリーマスコットキャラクター)、スナ Q(右)と記念撮影

ご意見をお待ちしています

問合せ先
〒810-0052　福岡市中央区大濠 1-2-36
福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部
電話：　092-725-3614
e-mail：　fukuoka_bousaichosa@met.kishou.go.jp

2025 年、気象業務は 150 周年を迎えます

次回の発行は 2024 年 12 月の予定です。